

## 人口ビジョン（原案）に対する意見一覧

No.	意見	市の考え等
1	(P34: (イ) 秋田市に住み続けるために必要なこと) 「雇用の場の確保」が重要なことは分かったが、どのような仕事を求めているのかを知りたい。求人倍率は全国的にみても低くはないので、どんな仕事があれば、秋田に住み続けるのかを分析してほしい。	いただいたご意見については、参考とさせていただきます。
2	仕事がないから、若い人はしょうがなく県外に行くしかなく、がんばって県内にいても、年収が低く、生活が苦しい人が多いと思う。人口の流出は、収入がポイントだと思う。国が悪いのだが、今の企業は、アルバイト・パートでも一人の人が月5万前後しか稼げないようにしている。企業側が社会的負担を軽減するためだろう。さらに秋田は賃金が低い。収入が低いから結婚は厳しいだろうし、子育てはもっとクビをしめることになる。出産後も仕事ができるように、保育園の数を増やすか、またはイオンや他の大企業に対しては、従業員用保育園を準備してもらおうとかがよいのではと思う。この前TVで孫の世代が祖父母の家に移住してくるケースが増えてきたと言っていた。それもこの時代ではありだなと感じた。なおさら、職の問題は大事。	いただいたご意見については、参考とさせていただきます。
3	推進計画への意見の通り、ひとつひとつバラバラに考えていても成功しないと思います。	いただいたご意見については、参考とさせていただきます。
4	(P34: (イ) 秋田市に住み続けるために必要なこと) 郡部に住む友人から聞いた事があるが、移住者を募って何組かの人達が移住してきたが、確かに空家を用意したり、周囲のフォローも行き届いたが、交通の不便さや冬の暮らに耐えられず1～2年で退出して行くケースが多いそうだ。雪の多いのはどうにもならないが、そこら辺をしっかりと把握させて呼び込んでいるのかと疑問である。冬でももっと楽しめる施設や場所を用意して、主要な場所からシャトルバス等を発着させたら、若者の流出も防げるような気がする。	いただいたご意見については、参考とさせていただきます。
5	人口が減少している割には今後も秋田市に住み続けたいという人が多いのは喜ばしいことと思う。でも雇用の確保や収入の増加に対する対策は何か考えなければならない。若い人が今後残って、又増えていかないと、2040年の人口分布図のようになった場合、大変ことになるのではと思う。その上の方にいるのが私もその中の1人であると思うと不安である。外からの移住を願うより、いま内にいる若い人たちが外に出ていかないような秋田市になれることを願う。	いただいたご意見については、参考とさせていただきます。
6	若い世代にとって、働くところがない、安定した仕事に就けないと言う問題は、致命的である。 職を求めて若者層が都心部へ流出する。 教育を受けようやく成人に達した秋田市民（結婚をし子どもを産むべき若い世代）が、職を求めて都心部へ転出するのだから、自らの転出による人口減とともに期待される出生率も併せて低下するのは当然である。 この人口減の負のスパイラルから抜け出すには、安心して働き生活の糧を得るための仕事を提供することこそ、最低限必要な喫緊の課題と思われる。	いただいたご意見については、個別の取組・事業の実施にあたり、参考とさせていただきます。
7	いろんな資料を見せられて、秋田は人口が減り続けていますよと改めて言われただけ、みたいな原案でした。多分秋田に住んでいる人は、それは知ってると思うのです。	いただいたご意見については、参考とさせていただきます。
8	人口減少は、雇用の少ない非正規職員等の関係から、今後の見通しは暗いものの、五城目町の全国にネットを通し年賃制として都会から人を呼び込む取組などユニークな点が目につきます。 手当ばかり目をつけてますが、それによる県外から来る若者は仕事がない限り効果は薄いように思います。 子育て、老後のことより、今働き盛りの人を対象にした対策、雇用面に力を入れ、これが将来の人口にかかわってくると思います。	いただいたご意見については、個別の取組・事業の実施にあたり、参考とさせていただきます。
9	(P41:ウ 長期的な展望 図表52 目指すべき将来人口（長期展望）) ①「目指すべき将来人口」赤線が2010年から下り始め、2090年からは横ばいになっていますが、理由は何ですか。 ②一方、「社人研」青線は大きく下り、赤線と大きな差が出ていますが、理由は何ですか。 ③このように、長期展望に大きな格差がある場合、どのように判断すればよいですか。	①2040年以降、転入と転出が均衡し、人口移動が無いものと仮定するとともに、2040年には人口置換水準（人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率）2.07を達成すると仮定したものであり、その効果が2090年に現れているものです。 ②社人研推計は、本市の人口減少対策を実行せず、このままの状況で推移すると仮定したものであるためです。 ③合計特殊出生率の改善が遅れば遅れるほど、長期的に安定する人口規模が減少することから、人口減少対策の実行が急務であります。
10	(P11:イ 性別・年齢階級別の人口移動の最近の状況) 男女共に15～29才が最も転出が多いのは、やはり進学先・就職先が秋田県内・市内だと限られてしまうからだと思う。私自身、進学の際は国公立大学を落ち、他県に行こうか悩んだ。他県の方が、秋田で専門・私立の学校に通うより金銭的に低くおさえられるところが見つけやすいと思ったからである。すぐには難しいと思うが、もう少し県内進学・就職をしやすい対策が必要だと考える。	いただいたご意見については、個別の取組・事業の実施にあたり、参考とさせていただきます。

No.	意見	市の考え等
11	現状や将来の人口について、かなり詳しく分析されておりますが、見れば見るほど気持ちが悪くなり、将来が心配になります。	人口減少・少子高齢化に今すぐ歯止めをかけることは困難であります。人口減少対策を喫緊の最重要課題と位置付け、元気な秋田市づくりを進めるとともに、元気と豊かさを次の世代に引き継いでいくため、様々な施策・事業に取り組んでまいります。
12	①雇用の場を確保するにはどうしたらいいか、若者にとって魅力あるまちづくりとはなにか。SNSを活用して具体的なことを聞き出してはどうか。 ②調査しなくてもわかるような内容で、もっと踏み込んだアンケートが必要。P36について住み続けたいと思う理由が重要ではないか。 ③県外から仕事の都合で秋田に在住している市民からアンケートをとると、実態がよくわかると思う。特に他県出身者から魅力のある市となることが重要ではないか。	いただいたご意見については、参考とさせていただきます。
13	(P42:【取組の基本的視点】①若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえるについて) 結婚・出産・子育てを、そもそも希望しない若者も多いと思うので、原因を分析するとともに、小学生段階から、これらの意義等を教育することも大切だと思います。	いただいたご意見については、参考とさせていただきます。
14	(P36:(ウ)今後も秋田市に住み続けたいか(全体)) 秋田市に住み続けたい人が74.9%もいるのに、人口の推移を見るととても悲しくなります。若い人達が長く働ける職場が欲しいと思います。	いただいたご意見については、参考とさせていただきます。